

文法のジャンル依存性 —文法が生まれる場としてのジャンル—

大江 元貴（金沢大学）

1. はじめに

■ 本発表の要点

- 文法にはジャンル依存的なものがある。すなわち、日本語の構文や語彙項目の中には、特定のジャンルの範囲内でしか観察されなかったり（「文法を形づくる」）、一般に成立していた文法が特定のジャンルでは成立しなくなったり（「文法を揺るがす」）するというふるまいを見せるものがある。
- 文法のジャンル依存性に目を向けることは、従来認識されていなかった構文を見出したり、既存の記述から逸脱する事例を理解する上で役に立ち、記述的な貢献が見込まれる。また、文法とはどのような体系をなしているのかという理論的な問いについて検討する具体的な切り口としても有用である。

■ 「ジャンル」「文法」

本発表では「ジャンル」を、何らかの共通性を以て括り出される談話の類型を広く指す用語として用いる。談話を類型化する際の代表的な視点としては、言語を介するチャンネル（音声／文字、手紙／電子メール etc.）や、談話参加者（談話参加者の数、関係、属性 etc.）、目的（事実を記述する／雑談を楽しむ／説得する etc.）などが想定されるが（cf. ハリデー&ハッサン 1991「モード」「テナー」「フィールド」）、これに限らない。談話を類型化する視点の違いや階層の別（【対話】>【友人との対話】>【友人とのチャットツールでの対話】）も区別せず、それぞれをジャンルの一種と見る。なお、Biber & Conrad (2009)のようにジャンルを談話全体の構造に着目してテキストを見る視点と規定する立場もあるが、本発表の「ジャンル」にそのような意味合いはない。

また、「文法」についても言語学の部門（形態論、統語論、音韻論、語用論など）の別を問わず、言語表現の構築において観察される規則性全般を指す用語として用いる（cf. 大野・中山 2017、定延 2022）。

2. 具体的な現象の観察

2.1 左方転位構文：「無助詞成分_i、（代名詞_i）…。」

日本語の典型的な左方転位構文は無助詞成分が文左端に現れ、その無助詞成分を先行詞とする代名詞の要素が後統節に現れる。無助詞成分で導入されるのは、その談話において主題性の高い対象（談話参加者の意識が継続的に向けられる対象 cf. Givón 1983; Chafe 1994）であり、主題に対する解説は多くの場合左方転位構文のみで完結せず、左方転位構文の前文脈、後文脈で主題に対する語りが展開される。

- (1) 二十一世紀に残したいものそれは自然と平和ですえー最近あの一こ私が子供の頃に比べるとトンボの数が無性に少なくなったような気がします (CSJ: S11M0483_210)
- (2) 森と湖の国フィンランドは北緯六十度と七十度の間に位置し国土の三分の一は北極圏内になっています (…) 十八万八千個もの湖を有し国土の六十九パーセントが森林ですこれはウラジュリこれはブラジルに次ぐ森林保有国となっておりますまさしく森と湖の国それがフィンランドという国なのです (CSJ: S09M1501_1370)

■ 【独演調談話】というジャンル

日本語の左方転位構文は(1)(2)のような【講演】のほか、【ナレーション】(「宇宙、それは最後のフロンティア」(『スタートレック』))、【戯曲】(「生きるべきか死ぬべきか、それが問題だ」(『ハムレット』))など、話者交替が基本的に生じない【モノローグ】には現れるが、話者交替が自然に生じる【対話】や、聞き手／読み手が存在しない【独話(独り言)】では使用しにくい(大江ほか2020;2022)。【対話】に左方転位構文が現れると、【モノローグ】への切り替えとして理解される。

- (3) ?今日の夕飯、それはカレーにしようっと。【独話】
- (4) A: 誰が一郎の母ですか?
B: 山田花子、彼女が一郎の母です。【対話?】(山泉2013:47)
- (5) A: 佐藤さんにはそんなことは不可能です。
B: ええ、それが可能な人物は自ずと限られてきます。
A: 刑事さん、それじゃあ犯人は、まさか?
B: そう、まず、山田花子、彼女がこの一連の事件を企てた。そして同僚の一人である田中が…【対話→モノローグ】

ただし、【モノローグ】の中にも左方転位構文が現れにくいジャンルがある。例えば、【新聞報道記事】や【論文】では左方転位構文は使いにくい。

- (6) 北大阪急行電鉄が令和5年度に開業する予定の新駅「箕面船場(せんば)阪大前駅」(大阪府箕面市)(??{それ/この駅})が25日、報道陣に公開された。千里中央駅(同府豊中市)から北へ約2・5キロ延伸する工事で新設する駅の一つ。北大阪急行によると、5月末に千里中央駅からのトンネルが貫通し、工事は順調に進んでいる。(産経新聞2022.8.25「北大阪急行「箕面船場阪大前駅」を報道公開 来年度開業」<https://www.sankei.com/article/20220825-SJYZE7ZJR5IOFL7JPEK5A4QJOU/> 2022.10.20 最終閲覧)【新聞報道記事】
- (7) 次に左方転位構文の意味的側面(??、これ)について検討する。【論文】

【講演】【ナレーション】【戯曲】と【新聞報道記事】【論文】を分けるのは、聞き手／読み手意識である。【講演】【ナレーション】【戯曲】などでは、終助詞や丁寧体などの言語表現が自然に現れることからわかるように、話し手／書き手が聞き手／読み手の存在を意識していることを言語化しながら談話を展開できるのに対して、【新聞

報道記事】【論文】では一般的に読み手の存在を意識していることを言語化しながら述べ立てることは避けられる。日本語の左方転位構文が出現する聞き手／読み手意識が強いモノログという談話ジャンルを、大江ほか (2020)では【独演調談話】と呼んだ。

【独演調談話】は、「一人の談話参加者が一方的に話す／書く」「聞き手／読み手意識が強い」という2つの特徴から規定される、【モノログ】の下位ジャンルである。

■ 左方転位構文のジャンル依存性

日本語の左方転位構文とジャンルの結びつきは、「【独演調談話】というジャンルによく現れ、それ以外のジャンルにはあまり現れない」という傾向的現象ではなく、他のジャンルには現れると不自然になるという強い制約であり、左方転位構文は【独演調談話】というジャンルでのみ成立するジャンル依存性が高い構文と言える。

- Biber & Conrad (2009)は、あるジャンル (Biber & Conrad 2009 の用語では「レジスター」) に特徴的とは言えるが他のジャンルにも現れる表現 (e.g. 【アカデミックな書き物】における受動文) と、あるジャンルにのみ現れる表現 (e.g. 【野球放送】における“the count is three and two”) を区別し、前者を register feature、後者を register marker と呼んでいる。左方転位構文は【独演調談話】以外のジャンルには基本的には現れず、仮に【日常会話】でこれらの表現を使用すると、当該ジャンルをあえて持ち込んだ、冗談めかした発話として理解される。左方転位構文は【独演調談話】の register marker と言うことができる。

■ 文法現象としてのジャンル依存性

左方転位構文のジャンル依存性は、構成する語彙項目の性質にも、文が表す内容にも還元できない。左方転位構文のジャンル依存性は、文構築のレベルで生じており、語彙論や語用論の視点だけでは説明できない。

- 「【新聞報道記事】には「えーと」「そのー」のようなフィラーは現れない」「ゆえに」は【日常会話】には現れない」というタイプの現象とは異なる。
- 【野球放送】における“the count is three and two” (スリーボールツーストライク) のように、文が表す内容が特定のジャンルと結びついているわけでもない。

2.2 演出的主題導入構文：「～ {は／が} コ系指示詞_[現場指示] (だ) + 名詞 (だ)」

左方転位構文のジャンル依存性は、【独演調談話】というジャンルが左方転位構文を成立させているということもできる。そのような視点で【独演調談話】に特有の構文が他にないか探索すると、これまでの構文研究では取り上げられてこなかったような構文を発掘することができる。

例えば、(8)がそれである。この構文は、談話の主題となる対象をコ系指示詞で指示し、立て続けにその指示対象の名前を名詞句で導入するという構造をとる。【ビブリオ

バトル】【宣伝・広告記事】【商品紹介番組】など、主に対象をプレゼンする目的の談話において演出的にプレゼン対象を導入する定型表現として使用される(大江 2020)。

- (8) a. 私が今回発表する本はこちら [現物指示]。ドリアン助川さんの『あん』という本です。みなさん、ドリアンというフルーツは聞いたことがあると思うんですけど、すごい臭いフルーツですよ。(…)【ビブリオバトル】
(YouTube「全国大学ビブリオバトル 2015 首都決戦」00:24～ <https://www.youtube.com/watch?v=oZBftVKqLUA> 2022.10.20 最終閲覧)
- b. [写真呈示] 純米酒ではなく、本醸造が好き！という方におすすめしたいのがこれ。知る人ぞ知る、新潟の名手「越乃景虎」。生産量に限りがあるので、地酒の専門店など限られた酒屋さんでしか見かけない銘柄です。
(mybest「元酒屋店主がおすすめする安くて美味しい日本酒 10 選」<https://my-best.com/lists/541> 2022.10.20 最終閲覧)【宣伝・広告記事】
- c. 今日ご紹介するのはこちら！（じゃじゃん！）『Re:ゼロから始める異世界生活エミリアがいっぱいクリアファイルコレクション』[写真呈示]（ブシロードクリエイティブ「全部集めたい！かわいいエミリアがたっぷりのクリアファイルが新登場」<https://bushiroad-creative.com/18> 2022.10.20 最終閲覧)【宣伝・広告記事】

この演出的主題導入構文が現れやすい【ビブリオバトル】【商品紹介番組】【宣伝・広告記事】はいずれも【独演調談話】の下位タイプと位置づけられる。その他のジャンル、例えば(9)のような【日常会話】での使用は不自然に感じられる。また【独話】はもちろん、【論文】や【新聞報道記事】などでの使用も想定しにくい。

- (9) ? [先輩と雑談で夏休みの宿題の課題図書に何を讀んだのかを聞かれ、たまたま持っていた本を見せながら] 僕が讀んだのはこれ。伊坂幸太郎の『重力ピエロ』って本です。この本がけっこう面白くて...【日常会話】

なお、演出的主題導入構文の構造をとらなければ、同じ状況で、同じような内容を語ることは可能であることから、【独演調談話】との強い結びつきはやはり構文のレベルで生じていると考えなければならない。

- (10) a. [(9)と同じ状況で] 僕が讀んだのはこの伊坂幸太郎の『重力ピエロ』って本です。この本がけっこう面白くて...【日常会話】
- b. [(9)と同じ状況で] 僕が讀んだのはこれです。伊坂幸太郎の『重力ピエロ』って本なんですけど、この本がけっこう面白くて...【日常会話】

左方転位構文と演出的主題導入構文は、照応か現場指示かという用法の違いはあるものの、いずれも代名詞・指示詞を差し挟みあえて持って回った文構造を作ること、対象の導入時に聞き手／読み手の注目を集めることに貢献していると考えられる¹。ジ

¹ 同種の事例はソ系の基準指示用法(堤・岡崎 2022)の一部にも見出すことができる。

(ア) a. それができるのはただ一人、そうこの事件の犯人だけだ。【独演調談話】

b. 今日は何の日か知っていますか？そう東京駅の日です。【独演調談話】

ジャンルの視点は、これまで認識されていなかった構文を見出し、互いに関連づけて理解する一助となる。

2.3 終助詞「よ」の特異な用法

3つ目に、【独演調談話】というジャンルが文法の棲み分けを生じさせていると思われる事例として、終助詞「よ」の特異な用法を紹介する。

(11)(12)は不特定多数の読み手に科学的知識を教授することを目的として書かれた記事の一部である。通常、このような科学的知識を解説する記事では「よ」などの終助詞の使用は避けられるが、読み手として子供を想定しているような場合には、語りかけるような文体となり、「よ」が現れることがある。発表者の内省ではこの「よ」は上昇調で再現される。

(11) 地球上には、1,000 万以上の種類の生き物があると考えられており、ひとつひとつの生き物はほかの生き物と関わり合いながら生きている。そうした生き物たちと、それらが生きる自然環境をあわせて「生態系」というよ。(学研キッズネット「環境なぜなぜ 110 番・生態系って、何ですか?」<https://kids.gakken.co.jp/kagaku/eco110/ecology0056/> 2022.10.20 最終閲覧)【解説記事】

(12) でんぷんとは、植物が空気中の二酸化炭素と水から太陽の光のエネルギーをかりて作り出す(これを光合成(こうごうせい)といいます)物質のこと。炭素(たんそ)と水素(すいそ)と酸素(さんそ)からできているよ。(グリコ栄養食品たべもの事典「でんぷんってなに?」<https://www.glico.com/nutrition/tabemono/material/02/index.html> 2022.10.20 最終閲覧)【解説記事】

(11)(12)は、「子供向けの文章は、実際に語りかけるようにカジュアルで親しげな書き口で書かれる」という文体に関する一般的理解から説明可能なように見えるが、実際にはそのような一般論には還元できない、もう少し複雑な現象である。なぜなら、【日常会話】では、話し相手がたとえ子供であっても、このような「よ」の使用は不自然に聞こえるからである。(13)(14)は、「断定形+よ」のままでは不自然であり、自然にするには、「のだ／らしい／はずだ」などのモダリティ形式を付加する必要がある。

(13) A: 生態系って何?

B: ??地球上にはたくさんの生き物がいて、その生き物たちがお互いに関わりながら生きてるじゃん?そういう生き物たちと、生き物が生きる自然環境をあわせて「生態系」というよ。(cf. 「(...)「生態系」というんだよ)【日常会話】

(14) A: でんぷんってどういう物質?

B: ??でんぷんは、植物が光合成で作る物質で、炭素と水素と酸素からできてるよ。(cf. 「(...)炭素と水素と酸素からできてるらしいよ」「(...)たしか炭素と水素と酸素からできてたはずだよ)【日常会話】

(13)(14)の不自然さは、(15)のような上昇調の「よ」に関する先行研究の記述(田窪・金水 1996、井上 1997) から自然に説明できる。パソコンの操作手順を説明する(16)が聞き手に「聞いて内容を理解する」こと以上の対応を求めていないため「よ」の使用が不自然になると同じように、(13)(14)は世界を構成する事実を確定的な一般知識として提示する文であり、聞き手に何らかの推論指示・問題提起をする文ではないため、「よ」の使用が不自然に聞こえるのである²。

(15) a. つぎに「よ」は、話し手が当該の命題を間接経験領域に明示的に記載する旨の標識とみることができる。この知識が前もって、自分の記憶にある場合、現場から得られたものである場合は、相手に教えるという発話の力が語用論的に生じる。さらに、既に述べたように I-領域は推論のための領域であるから、そこに明示的に記載するということは、「当該の命題を関与的な知識状態に付け加えた後、適当な推論を行え」という指示を含むことになる。(田窪・金水 1996: 72 下線は発表者による)

b. 「P よ ↑」は、「話し手と聞き手を取りまいている状況は、P ということが真になるという、そういう状況である」ということを聞き手に示して、「このような状況の中でどうするか」という問題をなげかけることを表す。(井上 1997: 64 下線は発表者による)

(16) 文書を保存する場合はですね、まず「ファイル」というところをクリックします(??よ↑)。(井上 1997: 65)

(11)(12)は、従来の上昇調の「よ」の文法(推論指示・問題提起の含意のない、知識を理解させることを目的とした文にはつかない)から逸脱している例であるが、この逸脱は(13)(14)との対比からわかるように特定のジャンルの枠内で生じる。発表者の観察では、(11)(12)のような【子供向け解説記事】や(17)のような【キャラクターの自己紹介】などに限られ、いずれも【独演調談話】の下位タイプとして位置づけられる。

(17) はじめまして！僕の名前は「ごみぶくろう」だよ！みんな仲良くしてね！僕はごみ袋をモデルにした豊中市伊丹市クリーンランドっていう森の中の再生工場に住むふくろうなんだ。(豊中市伊丹市クリーンランド「ごみぶくろうのページ(マスコットキャラクター)」https://www.city.toyonaka.osaka.jp/kurashi/gomi_risaikuru_bika/cleanland/sosiki_gaiyo/gomibukurou.html 2022/10/20 最終閲覧)【キャラクターの自己紹介】

(11)(12)の例があるからと言って、(16)をはじめとする【日常会話】における上昇調の「よ」のふるまいを説明する上での既存の記述の有用性は揺るがない。ここでの観察は、既存の「よ」の記述を塗りかえるというより、【日常会話】と【(子供向け)独演調談話】では「よ」の文法のあり方が異なることを示す現象として理解されるべきものと考えている。

² 「のだ／らしい／はずだ」などのモダリティ形式がつくと「よ」が自然になるのは、談話場における話し手の判断を含む文の形にすることで、話し手から聞き手に一方的に確定的な一般知識を教授するにとどまらない文になっているためと考えられるが、詳細は不明である。

3. 文法（研究）とジャンル

ジャンル（あるいはレジスター、スタイル）と言語表現の関係は、社会言語学の分野で扱われることが多く、文法研究においては語彙項目の特性や運用上の問題として補足的に記述されるにとどまるが多かった（cf. 渋谷 2022）。他方、本発表の事例はいずれも語彙項目や文の意味内容だけでなく、文構築のあり方が関わる現象であり、極めて「文法的な」現象である。また、スキーマ性の高い構文の記述や既存の文法記述から逸脱する事例の理解は、そもそも文法研究の文脈においてでなければ問題として認識されにくい。ジャンルと言語表現の関係の中には文法研究の視点によってこそ明らかになる現象があるのではないだろうか。

もちろん従来の文法研究においてジャンルの問題が全く扱われてこなかったわけではない。特にいわゆる「話し言葉」と「書き言葉」における文法の違いはこれまでも様々な形で指摘されてきた。例えば、「話し言葉」に特徴的な長大な節連鎖構造や言いさしなどは、「話し言葉」の非計画性や対面性を反映した現象であり、複雑な埋め込み構造やモダリティ形式・終助詞類のない裸の文末は「書き言葉」の計画性や非対面性を反映した現象と考えることができる。ジャンルの特性に応じて言語表現の構築パターンが変わりうるということはこれまでも広く認められていたと言える。

この考え方を文法の多重性という形でモデル化したものに Iwasaki (2015, 2020) の多重文法モデル (multiple-grammar model) がある。多重文法モデルによると、言語使用者は、「話し言葉（会話）」と「書き言葉」という媒体・制約・用途などの面で大きく異なる言語使用環境において、それぞれ「話し言葉文法」(SG: Spoken Grammar) と「書き言葉文法」(WG: Written Grammar) を重層的に獲得し、運用していると考えられる³。多重文法モデルでは、そのような具体的な文法をジャンル文法（用法基盤文法）と呼び、ジャンル文法ごとの差異を捨象し抽象化したものとして「抽象文法」を想定する。

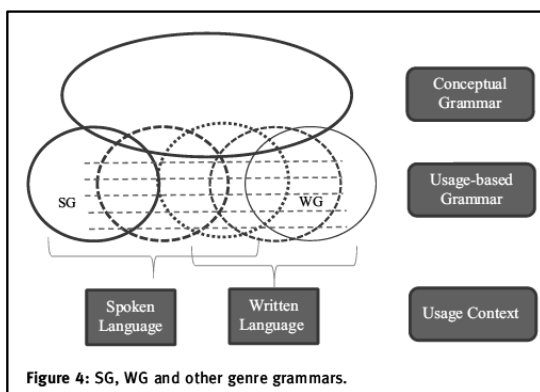


図1 多重文法モデル(Iwasaki 2015:172 Figure4)

³ 同じく、文法（言語）の多層性を想定する金水（2011）の「子どもの言語」と「広域言語」、渋谷（2022）の「口頭語スタイル」と「文章語スタイル」もおおむね、Iwasaki の SG と WG に対応すると考えられる。

多重文法モデルの興味深い点は、典型的な「話し言葉」「書き言葉」の間に様々なジャンル文法（例えば「公式文書文法」や「講演文法」）を想定している点にある。本発表は、「抽象文法」ではなく「ジャンル文法」のレベルで言語現象を観察し、日本語には「話し言葉／書き言葉」という対立では捉えられない【独演調談話】文法とでも呼ぶべきジャンル文法が存在する可能性を示したものであると言える。【独演調談話】は「話者交替は許さない、しかし聞き手／読み手意識は強く、聞き手／読み手を巻き込んで談話を展開したい」という動機が働くジャンルであり、独自の文法が生まれる素地を持っていると見ることもできる。このような文法観に立たないとしても、文法とはどのような体系をなしているかという問いについて具体的に考える際に、ジャンル依存的な現象は有用な切り口になると思われる。

参考文献

- 井上優 (1997) 「「もしもし、切符を落とされましたよ」—終助詞「よ」を使うことの意味」『言語』26(2), pp.62-67／■ 大江元貴 (2020) 「今日紹介する商品はこちら。最新薄型テレビ!」: 主題の導入を演出する定型表現」『日本語用論学会第22回大会発表論文集』15, pp.17-24／■ 大江元貴・居關友里子・鈴木彩香 (2020) 「日本語の左方転位構文はいつ、どのように使われるか?」『社会言語科学』23(1), pp.226-241／■ 大江元貴・居關友里子・鈴木彩香 (2022) 「日本語の左方転位構文の「形式」と「意味」再考」『日本言語学会第165回大会発表予稿集』／■ 大野剛・中山俊秀 (2017) 「文法システム再考—話しことばに基づく文法研究に向けて—」鈴木亮子・秦かおり・横森大輔 (編) 『話しことばへのアプローチ—創発的・学際的談話研究への新たなる挑戦—』pp.5-34 ひつじ書房／■ 金水敏 (2011) 「文法史とは何か」金水敏・高山善行・衣畑智秀・岡崎友子 (編) 『シリーズ日本語史3 文法史』pp.1-17, 岩波書店／■ 定延利之 (2022) 「発話への文法的接近」『國語と國文学』99(5), pp.15-30／■ 渋谷勝己 (2022) 「スタイルを組み込んだ文法研究—ことばに働く2つの力に注目して—」『日本語文法』22(2), pp.121-136／■ 田窪行則・金水敏 (1996) 「複数の心的領域による談話管理」『認知科学』3(3), pp.59-74／■ 堤良一・岡崎友子 (2022) 「心内の情報を指示するソ系(列)指示詞の用法」『言語研究』161, pp.91-117／■ ハリデー, M. A. K. & R. ハッサン (1991) 『機能文法のすすめ』大修館書店／■ Biber, D. & S. Conrad. 2009. *Register Genre, and Style: Second Edition*. Cambridge: Cambridge University Press／■ Chafe, W. L. 1994. *Discourse, Consciousness, and Time*. Chicago: University of Chicago Press／■ Givón, T. 1983. Topic continuity in discourse: an introduction. In T. Givón (Ed.), *Topic Continuity in Discourse: A Quantitative Cross-Language Study*. Amsterdam: John Benjamins. pp.3-41／■ Iwasaki, S. 2015. A multiple-grammar model of speakers' linguistic knowledge. *Cognitive Linguistics*, 26 (2), pp.161-210／■ Iwasaki, S. 2020. The non-predicative copula construction: A multiple- grammar perspective. *Journal of Pragmatics*, 170, pp.426-444